

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成20年5月1日(2008.5.1)

【公開番号】特開2002-363376(P2002-363376A)

【公開日】平成14年12月18日(2002.12.18)

【出願番号】特願2001-166148(P2001-166148)

【国際特許分類】

C 08 L	53/02	(2006.01)
C 08 L	91/00	(2006.01)
D 04 H	1/42	(2006.01)
D 01 F	6/46	(2006.01)
C 08 L	23/06	(2006.01)
C 08 L	25/06	(2006.01)

【F I】

C 08 L	53/02	
C 08 L	91/00	
D 04 H	1/42	J
D 01 F	6/46	C
C 08 L	53/02	
C 08 L	23:06	
C 08 L	25:06	

【手続補正書】

【提出日】平成20年3月13日(2008.3.13)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

水添ブロック共重合体(a)の製法は特に制限されず、例えば、アニオン重合やカチオン重合などのイオン重合法、シングルサイト重合法、ラジカル重合法などによって、ビニル芳香族化合物から主としてなる重合体ブロックを少なくとも2個と、共役ジエン化合物から主としてなる重合体ブロックを少なくとも1個有するブロック共重合体を製造し、次いでこのブロック共重合体を公知の方法に従って、不活性有機溶媒中で水添触媒の存在下に水添することにより製造することができる。

例えば、アニオン重合法による場合は、アルキルリチウム化合物などを重合開始剤として用いて、n-ヘキサンやシクロヘキサンなどの不活性有機溶媒中で、ビニル芳香族化合物、および共役ジエン化合物を逐次重合させた後、アルコール類、カルボン酸類、水などの活性水素化合物を添加して重合を停止させることにより、ビニル芳香族化合物から主としてなる重合体ブロックを少なくとも2個と、共役ジエン化合物から主としてなる重合体ブロックを少なくとも1個有する所望の分子構造及び分子量を有するブロック共重合体を製造することができる。そして前記により製造されるブロック共重合体を、不活性有機溶媒中で、白金、パラジウム、ロジウムなどの貴金属を活性炭、シリカ、アルミナなどの担体に担持させた触媒；ラネーニッケル；有機ニッケル化合物、有機コバルト化合物あるいはこれらの化合物と他の有機金属化合物との複合触媒などの水添触媒の存在下に水添して、水添ブロック共重合体(a)を得ることができる。このようにして得られた水添ブロック共重合体(a)は、1種類を単独で用いてもよいし、2種類以上を併用してもよい。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0035

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0035】

《実施例3》

(1) 参考例1で製造した水添ブロック共重合体(1)(表1における丸囲み数字1の水添ブロック共重合体)100質量部に対し、ポリエチレン[商品名:UJ480、日本ポリケム社製、MFR(190、2.16kg)=30g/10分]20質量部を予備ブレンドした後、二軸押出機にて230で溶融混練して押し出し、切断して、熱可塑性重合体組成物のチップを調製した。これにより得られた熱可塑性重合体組成物のチップを用いて、該熱可塑性重合体組成物の残留歪み、引張り永久歪み、メルトテンション値の振れ幅、および溶融破断時の巻き取り速度を上記した方法で求めたところ、下記の表2に示すとおりであった。

(2) 上記(1)で得られた熱可塑性重合体組成物のチップを用いて、Tダイ式のフィルム成形機($=90\text{ mm}$ 、 $L/D=2.5$ 、ダイ幅= 1040 mm)にて、ライン速度 $50\text{ m}/\text{分}$ のスピードで260で厚さの均一な伸縮性フィルム(フィルム厚み= $80\text{ }\mu\text{m}$)を製造した。このフィルム製造時の成形加工性を上記した方法で評価したところ、良好()であった。